

安井
乙流

明治英名百人首 全

安井乙流
編者
明治英名百人首
全



安井乙熊編輯

明治美名百人首

發兌

錦松堂 全



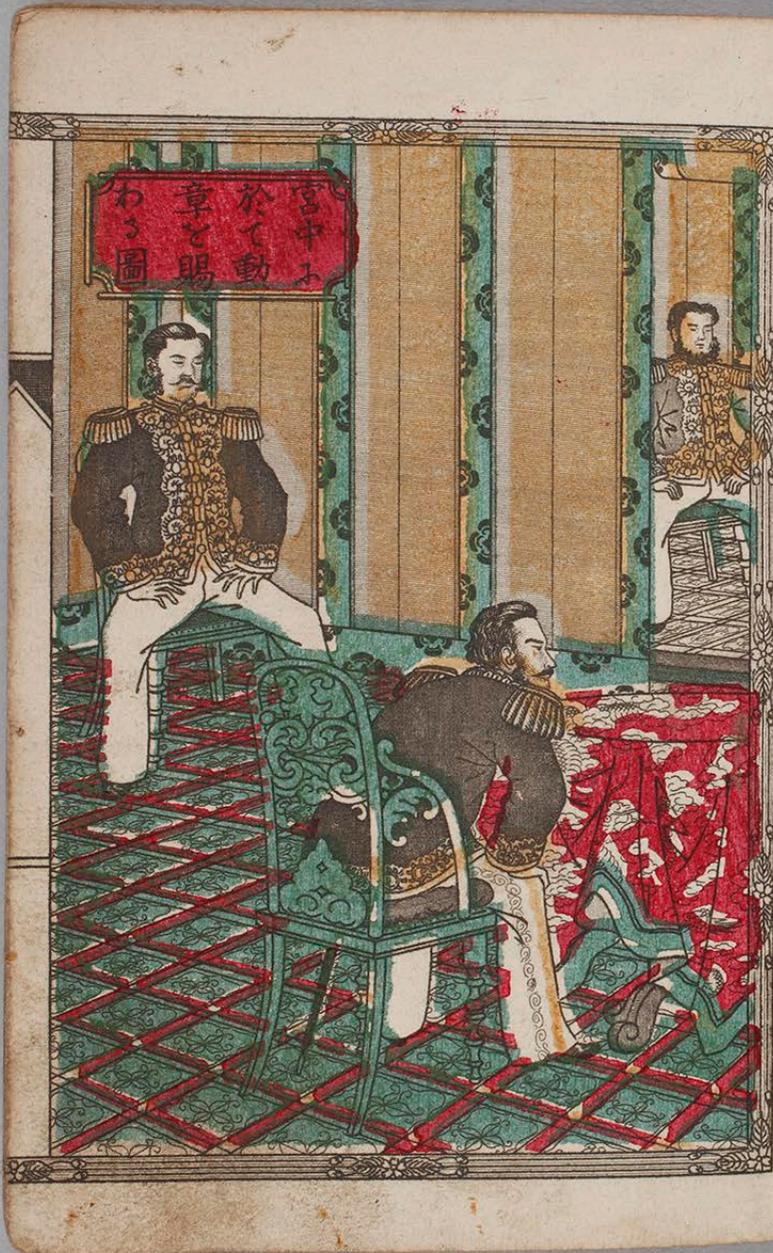
題言

人誰う志ぢからんや其志を以て子詩あり歌ありて能く其志と定む不足る世は幸無きを待歌成誦誦とば奈れ其志と立身と修め一家と為す此心を修む生を修むものなり此日錦松堂主人の志を以て此法中興日本立身此歌成誦誦と陸海軍此諸將校城まじく華族紳士新少佐若手至るまで此江潮を名なる各位の待歌成誦誦附書小画像小傳を以てして子詩始め小之を誦讀する此画像各位の牙懸ぬれを知りて志修身の一措とせんといふるふよりや尤も其子不字禱者誤謬杜撰を多しん仰ぎ望むるをその猶天訂正の事を惜むるまゝ人々や刻成る將子發布せんやす依て一言を茲に題はと云ふ

明治十五年春三月

芝原茂士

揮毫



嘉永三年四月十七日の御誕
 産あり御名を美子と申し奉
 り御父ハ故一條前左大臣忠
 香卿あり 皇后宮天性聰明
 懶發不巳とらせられ畏しと
 くも宮中不養蚕場を設け養
 蚕の業を親らあり給ふ又歌
 道を好ませられて雅調多く
 時々学修院女学校もとへ行
 啓あふせられ生徒の勉勵を
 賞さる又殿寡狐獨の者を憐
 と給ひ御手許金あど賜ふと
 少なかたぶと聞侍べる



卿ハ二位局慶子の父あり曾
 て議奏たりし時幕府開港互
 市の勅許を請ふ卿之を不可
 とし屢々攘夷の説を唱へ家
 人田中河内介をして九州有
 志の士を鼓舞せしむ既ハ
 て時勢漸く変ゆる不遇ハ一
 且洛北岩倉山へ退隱せしが
 猶三條岩倉等と共に内勅を
 諸藩不傳へ遂不復古の業を
 成せり明治元年十二月議定
 不任卜従一位准大臣不補せ
 られ二年神祇伯不任



卿ハ前右大臣公純卿の子也
 維新の日内國事務總裁とな
 り専ら内政を管理を又議定
 とあり官制を改むるふ及ん
 大納言とある明治二年外
 務大丞大樂源太郎等乱を山
 口不起の時不鎮撫使を命ぜ
 られ往て之を戡定は四年大
 納言を免せりる右幾バくも
 なく侍従長とあり遂に宮内
 卿に任ぜられ侍補を兼ね卿
 の國事不党せりるを短絛
 此盡に野不あふぞ

從一位宮内卿德大寺實則卿
 名をいふふ



不
 代しを
 名をいふふ

卿ハ大納言公時十五世の孫
 権中納言實勲卿の子也文化
 八年二月平安小生の為人新
 然雄偉家を起して光格仁孝
 孝明今上の四朝不歴事以卿
 ハ世不所謂る脱走七卿の一
 人にして維新の功臣なるハ
 衆人の知る処あり又和歌を
 よくし明治十三年八月廿四
 日東京不薨は年七十勲二等
 旭日重光章を賜ふ尚主上皇
 宮より金幣及び魚鳥酒菓等
 を給ふて祭祀不供せらる

故宮内省御用掛三條西
 季知卿



あはれ
 名をいふふ

宮ハ孝明天皇の皇妹ノ御
 弘化二年十二月十一日の御
 出誕あり親子内親王と稱し
 奉る文久三年十一月御歳十
 六の折関東へ下向せられ徳
 川十四代將軍家茂公不嫁し
 給ふ慶應二年將軍家茂公薨
 去せらる、后宮ハ靜寛院と
 稱し給ふ明治十年病痼療養
 として相州箱根温泉場不赴
 りれ入浴中遂に二豎の為め
 三十余年を一期として該地
 不薨去せらる

卿ハ前大納言実藤卿の子
 して維新前已少將たり玉
 政復古の日岩倉卿を先鋒總
 督となし卿を以て東海道鎮
 撫將軍小将前侍從柳原前
 光卿と共に薩兵等を率ゐて
 東下し大不慮分なる処あり
 徳川慶喜公其罪小服し関東
 平定の効を奏するもの卿の
 から多き小居るといふ明治
 元年以來諸官を経て現時正
 二位式部權助にして二等掌
 典を兼ねられたり



宮ハ一品懺仁親王の子也天
 保七年を以て生れ初め太宰
 帥宮と稱し明治元年征討大
 總督小拜せられ錦旗節刀を
 賜ひ東北不逞の徒を討しむ
 四年福岡藩知事となり八年
 元老院二等議官となり尋て
 議長とある十年西州乱る宮
 再び征討大總督小拜せられ
 諸將を率て之を討ち賊魁を
 斃し右陸軍大將となり大勲
 位菊花大綬章を賜ひ十三年
 一月兼左大臣小任せらる

卿ハ通稱を市藏といふ鹿兒
 島縣の士族なり西郷隆盛等
 と和漢の字を研究し尤も經
 濟に通じ王政維新の際參與
 とあり明治二年參議小任
 従三位小叙せらる六年内務
 卿小拜せられ七年辨理大臣
 とあり清國小使し十年西南
 の役起る大勲を征討し不
 功を以て勲一等小叙し旭
 日大綬章を賜ふ十一年五月
 十四日兇徒島田等の為小要
 殺せらる天下奉て之を惜む

みどりふおな
 けぞ
 けぞ
 けぞ



左大臣有栖川懺仁親王宮

代のふ代を
 奇がく
 奇がく
 奇がく



贈右大臣大久保利通卿

卿ハ村上源氏具慶朝臣の子
 不レて稟性豪邁才略絶倫か
 り毎レ朝家の微弱を憤り心
 を竭レて皇室を補佐し有志
 を招き事を謀る復古の時参
 與トあり明治二年大納言不
 拜せられ四年外務卿不轉シ
 右大臣不遷り特命全權大使
 とナリ歐米各國不使シ九年
 従一位不叙せらる十年西海
 道大不レ乱る卿獨り東京不駐
 り謀を惟幕の中不運リ其
 功少クありらばといふ



右大臣岩倉具視卿
 新玉の
 けの
 の
 ぼ
 ば
 園乃因
 おろきめ

卿ハ旧佐賀藩の人也為人精
 悍經濟の術不富シ富國の才
 不長シ維新前旧藩主開叟公
 不説テ王政復古の業不尽力
 明治元年召サレて参與ト
 あり幾クモかく参議不遷ル
 七年兼大藏卿不任セられ正
 四位不叙セらる王政維新以
 未度支の官不居リ用度曾ツ
 窮セて台湾の役西南の変不
 輜重欠クり速ク其効を奏ス
 るものハ皆其力不依ルとい
 ふ十三年專任参議トなる



参議大隈重信卿
 林々似帯
 夕
 陽明
 十六里堤勝景清
 春日偏如翻錦繡
 時看翠柳點桃櫻

卿ハ山口の人通称を準一郎
 といふ天資剛邁大度年若く
 して江戸へ来り江川勝等の
 門へ入り頗る志人の間へ開
 め明治元年徴れて總裁局顧
 問となり郡縣の制を定む三
 年参議へ轉じ九年請を許し
 参議を罷め内閣顧問へ拜じ
 十年一月車駕へ扈し京師へ
 到り四五月の交宿病再發し
 て五月廿五日遂に旅館へ薨
 じ年四十四後其子を華族へ
 列し従五位へ叙せり

卿ハ旧山口藩の人あり度量
 宏公にして膽略あり復古の
 際功勞甚と多く后徴されて
 参與へ拜せられ又参謀とあ
 り東羽鎮定の功を以て従三
 位へ叙せられ参議へ遷り明
 治四年一月五日の夜兇徒の
 爲め其邸へ暗殺さる主上
 悼惜し給ひ正三位を贈られ
 賊を天下へ索むる未賊の縛
 小就くもの數十人十三年五
 月該兇賊を刑罰へ処し其獄
 を結びたりと

贈正三位木戸孝允卿



故参議廣澤兵助卿

渺々江萬里風亂葉
 飛柳似飄蓬
 邊月出煙光淡暗



發寒香入艇中

卿ハ通称を民平と呼び江藤
 新平古賀逸平と合せて佐賀
 三平と称し頗る有名の人也
 若くして和漢の学小勉強し
 最も法律学小精し維新前日
 藩主の命を受けて薩長の士と
 復古の業を賛げ明治元年治
 れて參與又参謀とあり車駕
 不扈して東小下り同二年東
 京府知事小任せられ四年民
 部大輔より民部卿小轉し又
 参議兼司法卿とあり十三年
 参議兼議長小拜せらる

氏ハ長州の人也性剛強擊劍
 を克く以て戊辰の役大ひ小功
 あり賞典祿六百石を賜ふ明
 治二年二月参議小任し從四
 位小叙せられ同十二月兵部
 大輔小轉じ三年大臣等と議
 合ハ終つ小辞職して故山小
 帰り常小不平を抱く九年熊
 本の神風連及び長岡久茂等
 と謀を通し百餘人を集合し
 官兵小抗せれども毎戦利あ
 く遂小宇龍港小於て捕縛さ
 れのち山口小斬せらる

参議大木喬任卿



紀綱落
 七地
 百今
 年錦旗
 日輝天
 新輝天
 大仇一敗
 百萬虎將
 征北邊
 肝膽碎

故兵部大輔前原一誠

廉を

一誠



世の中
 一誠

卿ハ長州の藩士にして毛利氏の家臣より天資強悍深く兵学小志一曾て高杉晋作等と義旗を樹て大ひ小俗論黨を破る復古の際越後口の参謀とあり明治二年西郷真吾と共に命を受けて英國小留學の後歴官して陸軍中将兼参議陸軍卿小拜せらる鹿島乱興るの時参軍とあり總督の官を補佐し鎮定の功を奏し十一年参議小して参謀本部長を兼任せられたり

卿ハ元熊本の藩士也機略超邁小して漢洋の学小通下耶蘇教を信ト実学を務む世の攘夷を論ざるの日は小開國の説を主張故小其藩士小介けられ逃れて土州小入り終小越前小投下て春嶽公の寵を得公小説ひて屢々其才を試むる事を得さり復古の時徴されて参與とあり京師小在り大ひ小歐米の文明を讚美はるを以て俗論士の為め害せらる

参議山縣有朋卿



ちきりおのり
あつた
おのり
おのり
おのり

故參與横井平四郎卿



天亦不私
如有私
官花
已
早野花
遲若使我執
春權柄萬紫
千紅一度披

卿ハ鹿兒島縣の士族也始メ
 名を陶藏と呼ぶ年若くして
 蘭学小堂雪の功を積ミ心を
 医術小用文久年間江戸小
 来り松本某と改名一医業を
 開けり后藩主の内命を受けて
 森駿島吉田町田五代等の諸
 氏と英國小留学し大ハ心得
 る処あり明治元年帰朝の時
 小王政維新内外多事國家の
 為め尽力勉みふらば後諸官
 を歴参議兼外務卿小拜せり
 九十三年專任参議とかる

参議寺島宗則卿



満園風雪
 五更天爐
 上閑談坐不眠夜
 氣白坐虚實裡忽
 聽鑽燧響厨前

卿ハ鐵心と号け大垣藩の國
 老より其藩政を治むるや大
 ひ小文武の業を起し年少者
 をして之小従ハハハ又福
 原越後の京師小入らんとし
 る幕命を以て一隊の將とさ
 り伏を置いて之を待つ長兵銳
 進し伏兵小遇ふて挫敗し終
 小京小入るを得ば王政復
 古の際召されて参與となり
 幾くもかく其職を辞し老を
 故山小養ふ明治五年病を以
 て遂小没れ

故參與小原仁兵衛卿



上國治
 安策已
 定猶聞閑
 左羽書馳除
 日探梅若王
 寺笑對臘中
 春一枝

卿ハ旧鹿見島藩の士也少壯
 小して西郷隆盛等と共小國
 事小尽カシ維新の際参謀と
 あり東羽小戦ひ又残賊を蝦
 夷小伐て之を平らぐ後歴官
 して参議兼開拓使長官陸軍
 中将より明治八年特命辦理
 大使となり朝鮮小使は十年
 九州乱る乃ち勅使柳原前光
 卿の護衛として鹿見島小到
 り縣事を処分し後参謀とか
 り海路入代小進ミ連戦皆捷
 ち終小之を平定れ

参議黒田清隆卿



日暮天寒
 風雪飛尺
 簞寸笠到紫扉
 數聲夜犬送吾
 去似向笑蓉山畔歸

卿ハ旧山口藩士也為人精悍
 小して智略あり最も軍師小
 通は曾て山縣高杉等と俱小
 正義を立て藩論を一定して
 幕兵小抗し屢々偉功あり王
 政維新の時越後口の参謀と
 あり奥羽不逞の徒を討つ又
 軍務長となり諸隊を率ゐ東
 台屯集の彰義隊を破る功を
 以て従四位小叙せられ兵部
 大輔小拜せらる明治二年十
 一月兇徒の爲め京師の旅館
 小傷せられ尋で卒れ

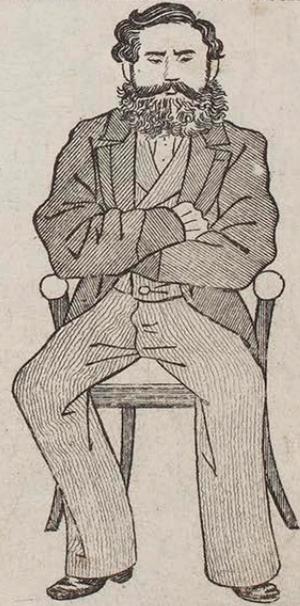
故兵部大輔大村益次郎卿
 智勇兼備の良將



一旦兇徒の手小斃る國家の爲め惜まざるを得ば

卿ハ西郷隆盛の弟ナリ幼小
 して兵書小通じ報國の志し
 最も厚く艱難辛苦して戊辰
 の役其功少ナリ復古の
 後朝命小依り山縣有朋卿と
 英國小游学し帰朝して陸軍
 中將小拜せらる七年三月台
 灣問罪の時事務都督とナリ
 九年米國博覽會副總裁を命
 ぜられて彼地小至り十一年
 參議兼文部卿とナリ又陸軍
 卿小轉じ十三年二月内閣分
 離の時參議專任とナリ

參議西郷從道卿



臥枕美人膝
 覺握兵馬權

氏ハ薩州の人幼名を中村半
 次郎といふ天資豪邁ナリ維
 新の際總督官東下の節先鋒
 を命ぜり礼直小江戸小入り
 後奥州小出陣し屢々戦功あ
 り平定の後祿二百石を賜ふ
 尋じ陸軍少將小任せられ程
 なく熊本鎮台司令長官とナ
 り又陸軍裁判長小遷る征韓
 論の起るや西郷隆盛と同論
 かるを以て無二の黨とナリ
 竟小兵を率て官兵小抗し十
 年九月岩崎谷小敗死ス

故陸軍少將桐野利秋
 桐野利秋を



秋戎と云
 まる傳のあし
 しをとおひあ

卿ハ薩州鹿兒島の旧藩士也
 幼シテ兵学志尤も海
 軍の術小長ニ維新の際西郷
 隆盛と共に参謀となり東海
 道を下り東北の賊を伐ち大
 ひ小功あり后諸官を經海軍
 中将小任せられて同大輔と
 り西南の役山縣黒田等と俱
 小参軍小拜せられ總督官を
 佐け戡定の功を奏し依て勲
 一等旭日大綬章を賜ふ十一
 年参議兼海軍卿小任せられ
 十三年参議專任となる

参議川村純義卿



維新之
 明治之
 功臣

良弼

氏ハ旧豊前の國中津奥平家
 の國老より幼小して文学を
 能くし圍碁等小長也后ち故
 ありて中津藩を脱し萩藩毛
 利家小仕ふ復古の日屢々偉
 功あり平定の後佐土藩の参
 事小拜せらる思ふ所ありて
 程なく職を辞し縣地小返り
 前原一誠と深く交り九年十
 月共小叛を謀り大ひ小成れ
 所あらんとせしが衆寡敵せ
 ば遂小捕へられ前原等と俱
 小斬せらる

秋賊魁奥平謙輔

一人之敵
 何須足記
 姓名



書又
 迂太
 愛姦
 孟雄
 德帷
 中不睡
 註孫吳

卿ハ通称市之丞空齋と号け
 山口縣士族かり明治元年王
 政復古の時参謀とかり各所
 小苦戦し遂小平定功を以
 て賞典祿六百石を賜ひ兵部
 大丞小任せらるる三年命を奉
 じて大坂兵学校を建て四年
 少将小拜せられ全権大使歐
 米巡行の時理事官を以て之
 不随ふ后佐賀の役鹿児島
 変戦功少うらげ十一年中将
 小拜せられ十二年工部卿と
 あり翌年参議小任げ

氏ハ旧薩州鹿児島藩士あり
 稟性温和敦厚小して和漢の
 学小獵涉殊小兵書小通に
 戊辰の役伏見小戦うひ又江
 戸小来りて彰義隊を上野小
 討て之を平らぐ奥羽平定の
 后ち陸軍少将小拜せられ近
 衛長官とかれり其征韓論の
 西郷隆盛と同じきを以て無
 二の黨とかり西郷の逆意小
 與一暴徒の巨魁とかりて奮
 戦せしが遂小同年四月吉次
 越小て戦死せりとぞ

世間何物保真天立緒法
 章涕泣頻應有鬼
 神為邦哭
 登場反
 賊故
 功臣
 参議山田頭義卿



故陸軍少将篠原國幹
 篠原國幹を
 免



此の如く
 此の如く
 此の如く

郷ハ通称を金次郎といひ徳川旗下の士也維新前幕命を以て和蘭小留学し海陸軍の術を研究し帰朝して幕府小仕ふ徳川慶喜公政權を返還するの際脱兵を率ゐる品海より汽船小搭し箱館小至りて官兵小抗はると數閱月然れ共衆寡敵せば遂小降る后ち朝廷召して海軍中将小任に於六七年の交露國特命全權公使小拜せられ十三年二月内閣分遣の時海軍卿小任に

海軍卿榎本武揚卿



七重濱
 接五稜城耳熟
 朝々喇叭聲一夜松杉
 林外雨懷來感往到天明

従四位島義勇

氏ハ通称を團右衛門といふ佐賀の藩士小して有名の入りたり維新以來諸官を経て開拓の判官小拜せられ又大学の少監より明治六年征韓の論行ハれざるを憤り江藤新平と俱小故山小帰り翌七年新平等と兵を起し佐賀縣廳を襲ひ兵力を以て其所論を遂んと合兵と戦ふと數次遂小高知縣下小走るのち縛せられ佐賀小於て江藤と共小梟首せらる

水晶盤
 裏錦波流



一帯飛橋
 十里浮萬艘檣聲霞
 外動五洲山色望中叔

卿ハ尾州藩の士小して國學
 の博士ニシテ王政維新前旧藩
 主徳川慶勝公の命を受け朝
 家の為め尽力せんとす其の
 らび慶應三年召されて参興
 とかり明治元年辦事小拜せ
 らる官文部省を創立せらる
 る時卿を以て文部大輔とか
 り以來教育普及の方法小意
 を注ぎ東京女子師範学校幼
 稚園等を設立せらるる十一年
 議定官を兼ね十三年内閣分
 離の時司法卿小轉せらる

氏ハ薩州鹿兒島の人小して
 名を常光といふ才略あり勤
 王家小して屢々長州小往來
 周旋するを少あつたば明
 治元年王政維新以來諸官を
 經て宮内大丞小拜せらる同
 四年岩倉全權大使歐米各國
 へ巡行の時隨行し乞ふて歐
 州小留ると數年かりしが西
 郷隆盛冠を掛け故山小飯る
 と聞き帰朝して西郷の逆意
 小與し一隊の將とかり遂小
 九月岩崎谷小て戦死せり

ねあふ下
 海
 司法卿田中不二磨卿

故宮内大丞村田新八
 決心偏欲開
 却以
 浅謀
 躓
 踏
 呼狂呼暴任人評
 桃紅李白自然色

卿ハ故薩摩守齊興の第三子
 前鹿兒島藩知事忠義公の父
 あり其性文を好み又よく武
 小通に維新前より國家の爲
 め功勞鮮かりらば明治二年
 勤王の勲功を賞し十萬石を
 賜ふ三年上京し幾く程もか
 く藩小返る七年左大臣小拜
 せらるる参朝して大ひ小意見
 を陳べ後ち官を辞し九年宿
 痾療養の爲め薩州櫻島の温
 泉場小赴き今尚ほ風月を樂
 んで老身を養へり



卿ハ旧肥前佐賀の藩主小し
 て名を齊正といふ性剛直不
 して文武の才略あり嘉永以
 来國事小憂勞し屢々攘夷の
 策を幕府小建に幕府用ひる
 能ハバ尋て文武総裁職とか
 る明治元年議定より後ち大
 納言小遷る時小薩長肥後の
 三藩主と共に封土奉還の議
 を上つる同四年正月薨び副
 島種臣江藤新平大木喬任大
 隈重信等の頭官小採用せり
 るハ卿の薰陶小出づと云



卿ハ旧土州藩の士也人となり
 正直小して才幹あり王政
 復古の際召れて參與しかり
 又參謀となりて奥羽を征討
 し遂に平定の功を奏せり后
 高知藩権大参事しかりしが
 幾むくもかく参議小拜せら
 る七年江藤副島後藤諸氏と
 民権議院設立の議を上つる
 后ち縣地小飯り愛國社を立
 て其長となり民権を振起せ
 るを以て己が任とかり當時
 其社員二万余人といふ

卿ハ通称を次郎と呼び旧佐
 賀藩の人也天性英才宏度量
 古今を兼ね議論確証先人を
 凌壓し維新以後歴官して参
 議兼外務卿小拜せられ特命
 全權大使となり清國小使し
 て台湾事件を談判し后ち致
 仕して清國小遊び李鴻章等
 と文墨を以て交り清人頗る
 其才藻小服けといふ十二年
 召されて宮内省御用掛とあ
 る其維新前後の功勞ハ短紙
 の能く竭け処小あらび

前參議板垣退助卿



出師未
 曾汚天兵
 一死只期
 竹帛名彈
 子飛行乱
 如雨喜見壯士躍登城

前參議副島種臣卿
 使事完成持
 節還自



嗤身
 世未
 全閑通州
 夜雨蓬窓夢
 重謁清皇咫尺間

卿ハ高知縣の士族也元燁と
 号し容堂卿服心の臣とり曾
 て容堂卿の命を受け大政を
 奉還り可きとを徳川慶喜卿
 小説き王政復古の時參與と
 あり明治二年参議小遷る四
 年工部卿小任せられ幾く程
 もなく左院議長小拜せらる
 後板垣江藤諸氏と民撰議
 院設立の議を献白し尔未肥
 前高島の石炭坑開鑿の業小
 従ぐひ國家不益すると莫大
 かりといふ

前参議後藤象次郎卿
 天下大権歸
 王室
 昔年の
 霸業一
 朝空國是
 全定是誰力收
 在書生一筆中



A black and white illustration of Goto Shigemasa, a prominent Japanese politician. He is depicted sitting on the ground, wearing a Western-style suit with a high-collared jacket and trousers. He has a full beard and is holding a hat in his left hand. The text around him is in vertical columns, praising his political achievements.

卿ハ鹿見島の人博學通せざ
 るかし殊に兵學不精し維新
 此日一隊不將として長の隊
 長山田頭義卿と共伏見不
 在り寡兵を以て關東の大兵
 不當り激戦数次遂不之を敗
 る又参謀とあり東北の乱賊
 を討て之を平らぐ尔來諸官
 を歴て左院議長とあり侍讀
 を兼ね后ち職を辞して故山
 不飯る十二年召されて宮内
 省御用掛りとあり新宿博物
 御園の長官とり

鳥島片々平沙
 前参議伊知地正治卿
 月下漁翁鋪草筵
 芦洲繫駐二三船
 岸曲浦迢
 遙垂柳前



A black and white illustration of Ikeda Masaharu, a Japanese politician. He is shown sitting on the ground in traditional Japanese attire, including a patterned kimono and hakama. He is holding an open book and looking towards the right. The text around him consists of a haiku and a short biography.

卿ハ前中納言光愛卿の子にして先帝の朝不侍従より大政維新の日橋本実梁卿と共に先鋒總督とあり兵を率ゐて東下り平定の後諸官を経て明治四年外務大丞を以て遣唐副使とあり支那公使の後右全權公使不拜せられ清國不駐劄を在る正數年十年九州大いに乱る乃ち勅使となり鹿兒島不到り島津父子を召し今元老院幹事にして露國特命全權公使となり

全權公使柳原前光卿



卿ハ薩州鹿兒島縣の士族也天性剛毅幼にして和漢の書不啻雪の効を積み歳十八にして旧藩主不抜擢され寺島森較島五代町田の五氏と共に英國不留学すると三年明治元年米國不留学し同ドク四年帰朝して租稅權助不拜せられ右大藏少輔不轉じ同五年理事官を以て米國不使に七年特命全權公使不拜せられ合衆國不駐在し十二年帰朝して復任す不赴きぬ

全權公使吉田清成卿
 簾外風威
 早報陽庭
 前又是
 有芬香
 一枝梅
 却陪千
 樹可愛
 人間樂未央



卿ハ鹿兒島の士通統を金の
 丞と呼び幼ハして英敏あり
 元治元年旧藩主の命を受ケ
 寺島較島吉田五代町田の五
 氏と共に英國不遊學するを
 数年維新の際帰朝して議事
 体裁取調掛を命ぜらる時不
 卿脱刀の議案を出以明治八
 年全権公使不并せられて清
 國不駐在し十年帰朝して外
 務大輔不轉ト十三年亦英國
 特命全権公使とあり同二月
 倫敦不解纜せりと云ふ

全権公使森有禮卿



満開高幹萬
 枝紅日霽光
 暉散室中六月
 旬々花未謝白
 雲帶處似江虹

氏ハ旧會津の藩士也初め各
 を敬次郎といふ大政維新の
 后斗南藩の参事たりしが
 幾く程もなく職を辞して東
 京不來り湯島天神下小舎
 を設け學生を教授せし不飲
 酒の爲め人望を失し遂不閑
 舎せり後萩の前原一誠等の
 逆意不與し千葉縣廳を襲ひ
 声援をよさんと約し九年十
 月某日錦の見世開の電報を
 得同縣へ赴りんとし小網町
 不縛せられ斬せらる

苟くも人の師とある者不
 謀叛を企て
 臭名を千歳
 不流に豈
 慎まざる
 けんや



郷ハ土州の人物の名を守部
といふ曾て江戸未安井
息軒翁の門に入り漢
書を研究以維新

前日藩主の
命を受け献替する所多く明
治元年大軍監となり所々不
轉戦して偉功を奏せり後陸
軍少将を拜せられ佐賀の乱
台湾の役皆與りて力あり十
年薩賊起る卿熊本在り五
十餘旬籠城おし賊をして上
京不志しを得ぬ卿カ也と



陸軍中将谷干城卿



與君同排
龜山雲與
君同拂熊城
氣龜山熊城君休
說生者勲不知死者勲

氏ハ長門秋の士族にして前
の兵部大輔前原一誠の弟ふ
り維新の後陸軍少佐小拜せ
られ熊本鎮臺歩兵第十四聯
隊の長となり明治八年十二月
俄小辞職して帰縣かし家兄
の逆意を賛成し九年九月家
兄及び奥平謙輔等と百餘人
を嘯集し官軍小抗す穎太郎
等毎戦利なく一漁船小搭し
其地を去りしが遂小雲州宇
龍港小於て捕縛せられ后ち
斬首の刑小処せられり

故陸軍少佐山田穎太郎
皇道衰殘亡國
風清姦策破事
為空精
神遊散
兩間
裏斷首當
年表忠魂



卿ハ前大納言隆生卿の子小
 して先帝の朝少將となり矣
 丑以來國事小憂勞れるを數
 かうらび又三條其他諸卿と
 長州小走る戊辰の役軍事參
 謀ばかり兵を率ゐて関東小
 下の復古の后陸軍少將小拜
 せらる四年山口藩脱隊の者
 九州路小出沒し暴行小及ぶ
 を以て日田縣小出張し諸藩
 の指揮を委任せらる賊黨尋
 小平定は十四年二月中將小
 擧し議官を兼ねらる

陸軍中將四條隆訶卿



卿ハ旧名を正之進とい小鹿
 児島縣の士族あり維新の役
 卒族の隊長とあり諸野小戦
 功あり就中新潟長岡會津の
 三戦小最も功あり明治四年
 徴されて東京府大属小任せ
 られ五年大警視とあり其冬
 政米各國小航し人民保護の
 方法を調査し既て之を府下
 小行ふ十年陸軍少將小兼任
 し叛賊征討小尽力し十二年
 再び歐洲小航し帰航中病を
 得歸りて家小死に

故大警視川路利良卿



嗚呼偉哉府
 下百萬之
 人衆
 得高枕
 安眠職
 依君能
 盡任
 嗚呼偉哉

公ハ元尼ガ崎商家の子ナリ
 曾テ練兵ノ術ヲ江川氏小孝
 び其術小長ビル小及テ幕府
 の臣トカル王政復古の日幕
 府の傳習隊ヲ率ハ屢々官軍
 を敗ル既小して榎本等ト共
 小函館小走り尚官兵小抗レ
 るト数ヶ月然レ共衆寡敵セ
 於榎本等ト俱小軍門小降ル
 后徴サレテ開拓陸軍等の諸
 官ヲ經今從五位工部大書記
 官小して本年の内國勸業博
 覽會の審査官トシ

水陸三千共進兵
 兩軍今日決輸
 贏上丘
 一望
 敵方
 近
 觸袖飛
 丸憂有聲
 工部大書記官大鳥圭介公



氏ハ鹿兒島の士幼名ヲ萬齊
 とい小旧藩の時茶道ヲ勤メ
 たり其性剛邁小して擊劔ヲ
 善クハ大政復古の際大ひ小
 功あり右の諸官ヲ經テ陸軍
 少佐小拜セラレたり官屯田
 兵ヲ北海道小設ル小當リ開
 拓使大主典小兼任シ北海道
 小赴キ屯田兵の長トカレリ六
 七年の交辭職シテ縣小歸リ
 桐野等の勸小依リ西郷の暴
 挙小與セシガ其敵ハ可うラ
 ざるヲ悟リ遂小割腹セリ

故陸軍少佐永山彌一
 氏何の見る處ありて
 暴挙小與セリ
 百方
 勘
 考
 され
 とも其主旨
 を得る小苦る一む



公ハ尚中翁の長子ナリ明治元年獨乙國小留學以医学大ニ進ミ策門甲科最上級小上リ博士の稱譽を得て同八年帰朝し順天堂病院を建て父子心を協せ力を同ふし大ニ小治術を施し普く世人を救ハんとし疾病小罹る者未テ診断を乞ふ者陸続絶えざといふ十年西南の乱公陸軍軍医監小拜せられ大坂病院の長とされり平定の後勲四等小叙せられり

氏ハ長州萩の士族小して前原一誠の従弟ナリ其性剛勇小して擊劍を克くし明治九年九月前原等暴拳の時與平謙輔横山俊彦等と各所小轉戦せしが軍破るゝの後逃れテ鹿児島小投し竊小桐野利秋小依り私学校小入る十年西郷等の逆意小與し桐野篠原等と俱小諸隊を指揮し数々勇を顯せし遂小肥後の國川尻小於て非常の勲をかし討死しりける

一輪如
鏡満
清川



軍醫監佐藤進公

雲影茫茫
收淡煙
中流趣心融
神會意
悠然

前原一格
寒樹深裡積雪中
浮香獨自
發奇工

疎枝折取非意
無沐前為欲補
春融



君ハ上州血洗島村の人あり
天性活潑大度曾て清水民部
大輔小隨て仏國小赴き大ハ
小得る処あり明治三年一高
店を横濱小開き駿河屋とい
ふ后徴されて大藏省大丞小
拜せられ進んで同省三等出
仕小補せらる故あり同大輔
井上君と共に小辭職おし第一
銀行の頭取とかり紙幣の取
引米穀の賣買等小於て神筆
を極めざるを以て俄頃おし
て富数万圓不至るといふ

君ハ初め江幡八郎と称は旧
盛岡藩の士なり人と為り温
厚平和常小忠孝義節を重し
人と談して此事小及べハ必
ず歎歎流涕はと幼若小して
江戸小来り又諸國を遊歴は
明治六年大藏省小出仕し尋
で文部省小轉じ編書の事小
従ふ十三年八月某日友人と
對酌款談中遽小倒れて終小
起ば享年五十三君博學小し
て強記著書頗る多しと雖も
未だ梓小上らばといふ

第一銀行頭取波澤榮一君

幽窓書
室外山雨半
空中蕉葉翻々
響知三應動
夜風



那珂通高君



ゆきあきぎる本林
あけ
まの

君ハ幕府の人にして号を敬
 字といふ初め昇平賞不入り
 旁ハら大坪蓬洲不就洋学
 を修む後ち幕命を以て英京
 龍動不留学し其業大ひ不進
 む維新の後辞して官不就
 べ既にして女子師範学校の
 摂理を命せられ幼穉園を建
 てらる君譯はる処の書数種
 あり就中西國立志編を世
 小行ハる曾て同人社を設け
 数百の書生を教授され今東
 京学士會院の會員なり

中村正直君
 蛭島流民嘗
 苦酸髻
 年
 質子
 忍飢寒
 二公霸業實基
 此後嗣失傳由宴安



氏ハ豊前の國中津の人なり
 幼小して和漢の書を学び后
 ち東京小来りて洋学を修め
 英國小留学はるを数年常不
 我國威の衰へんを憂へ懐
 慨止む時かく曾て鹿児島私
 学校の生徒と交り又同所小
 て出版の田舎新聞の編輯長
 とりしが遙小西郷等の逆意
 を援け中津暴拳の巨魁とな
 り縣廳を襲ひ一時縣下を騷
 擾せしが后ち縛ふつき斬首
 の刑不処せられたり

増田宗太郎
 末つひ小娘
 ありて



孫く
 子
 ありて

翁ハ下総小見川の人初カ寺
門靜軒不隨ハ漢学を修め后
ち佐藤泰然不就テ洋書并不
い術を学不又長崎不赴キ洋
医術を学不又長崎不赴キ洋
医雨百氏不就テ内外諸科の
術を修む藩不歸リ献言して
病院を建つ此本邦病院の嚆
矢カリ明治二年文部大丞兼
大典医不拜せらる七年辞し
て順天堂病院を湯島不建つ
其宏庄官立の病院不譲らレ
當今有名の岩佐佐々木等の
諸人皆其門不出バといカ

前大典醫佐藤尚中公翁
爽氣開襟縮熟
天詩文
經歴
列傳
瓊筵此
中交得和漢
說別有和蘭書
一篇



坂田諸潔

其代也



其代也

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

氏ハ旧高鍋の藩士カリ初カ
桃太郎と称カ幼カして安井
息軒の門カ入り漢学を修む
戊辰の役東西不奔走して大
ひ不國事不尽カリ明治中興
の初カ新泻判事不任せられ
幾バくも不弾正少忠不轉
ト后關拓幹事不拜せられし
カ官を辞して故山不飯り明
治十年鹿見島の賊魁西郷等
の逆意不與一旧高鍋の藩士
を煽動せしが遂不捕縛され
斬首の刑不処せられカ

君ハ元長崎の人天性穎敏不
 して強記かり壯年江戸小未
 り蘭書を学び兼て英佛の書
 小通じ明治元年江湖新聞を
 編輯し后ち大藏省小出仕し
 理事官を以て伊藤博文芳川
 顕正の二君と米國小航以四
 年岩倉大使不隨ひ政米各國
 巡回の途辞して帰朝し東京
 日々新聞の社長とある十二
 年東京府會を開く不際し議
 負等君を推して議長とあり
 頗る其任不終ふといふ

日報社福地源一郎君
 秋蘆抽白擁漁家



太似漁翁衰髮華昨
 夜扁舟月明裡灣々
 看雪不看花

女史ハ撰州西成郡の人名を
 滝野といふ花蹊ハ号かり天
 質明慧不して書画を好む四
 歳の時既不神童の聞えあり
 女史西京不在ると数年維新
 の後専ら風流文学不從事し
 五年の春東京小未り八年の
 冬女学校を設け大ひ不生徒
 を集り和漢の典籍及び書画
 算数裁縫を教ふ其生徒数百
 人あり華族縉紳の女其半不
 過ぎ洋客の子女も亦其校不
 入るものありといふ

跡見花蹊女史

君の朱筆

あふあふ

るるる

り

るる



あふあふ
 初汁

翁ハ乾庵と号以幕医喜多村
槐園翁の第三子あり初め安
積良齊翁の門不遊び又昌平
賞不入りて大ひ不勤学以年
若くして函館不赴き病院医
学亦を建て居ると五年不し
て江戸不飯り外國奉行不任
ト若年寄格不進む外國語学
亦を開き横須賀製鏡処を創
むるハ皆翁の献議不出づと
いふ明治以來仕官せられた
報知新聞の編輯人とあり又
本所の區會議長とあり

報知社栗本鋤雲翁
門巷蕭條夜色
悲鳩鵲聲
在月
前枝
誰憐孤
燈短檠
下白髮遺臣讀楚字



上人ハ姓を岳といひ又右竹
と呼ぶ豊後日向郷竹田村の
人にして真宗の上人あり曾
て同國廣瀬炎窓翁不就て漢
学を修り詩文を学ぶ中年不
いとり始めて画道不志して
與技不達一其氣韻を見るも
の驚膽拍掌せざるあし然れ
ども意不適ハざれば数月間
筆をとらばといふ世不逸雲
鏡翁香雨と上人との四人を
九州の四仙といひ其名天下
不高し

僧五岳上人
我年過五十一
情況稍蕭
然手熟
畫事
才衰俗
却圓詩



翁ハ旧幕府の臣也初め甲子
 太郎と称し世々儒を以て仕
 えとり慶應元年騎兵頭不拜
 せらる時子翁兵制を洋式に
 改む明治元年幕府瓦解の際
 大いに尽力し献替するに少
 かりらば後ち辞して仕へば
 六七年の交政米各國を巡回
 し八年朝野新聞の社長とな
 る以来商法會議所扶桑商會
 等の役員となり大いに拮据
 し傍ら花月新誌を編し渥堤
 不關居し風月を樂めり

朝野新聞成島柳北翁



翁ハ會津の人歟として書を
 嗜し曾て長崎に遊び清客錢
 少虎等と筆法を論じ遂に清
 國に航し遍く名家を訪ひ居
 るに二年不して東京に還る
 名日小頭丸弟子益々進み曾
 て修齊廉節の四字を御覽不
 供し資あり又宴を中村樓に
 開き席上鸞龍の二字を書け
 其字方一丈餘ありといふ又
 門弟殆んど二千人に及ぶ惜
 哉明治十一年一月病んで東
 京に死に年五十七

故佐瀬得所翁



大翁の
 小の
 大翁の
 小の
 大翁の
 小の

君ハ元豊前中津の人幼ハして
 個儻大志あり漸く長びる
 不及んで大坂不遊ハ緒方洪
 庵の門不入リ蘭書を学ビ居
 事数年萬延元年軍鑑奉行
 柴ノ向守不隨て米國不航
 し後幕府の使節不隨從し政
 州不赴き英仏蘭等の諸國を
 遊歴し飯て西洋事情を著ヒ
 又慶應年間一塾を開き慶應
 義塾といふ普く學生を集め
 て教授ハ学成り業を卒る者
 多く今生徒五百餘人ありと

慶應義塾福澤諭吉君



青筠含
 露拂蒼空
 曉霧晴時聞早鴻
 柳葉飄々黃葉下
 水村山郭關秋風

君ハ越後新茶田の人あり家
 世々商を以て業とあり君十
 八歳の時江戸不來り一小店
 を開き雜貨を商ヘリ王政維
 新の後本町不西洋裁縫巧を
 設くこれ本邦不洋服を製ハ
 るの初めとあり明治五年政
 洲不赴き物産の精巧貿易の
 実況を察し飯て大倉組を創
 立し後七年台湾の役十年西
 南の乱不大ハ不糧糧の輜重
 不尽力し鎮定の功君與て力
 ありといふ

大倉喜八郎君



あはれ
 心
 大倉喜八郎君
 大倉喜八郎君

君ハ旧幕府の臣にして前紙幣権頭須藤時一郎君の令弟あり稟性聰明にして漢洋の書不達に幕府の末路尽力少かりらば明治中興の後司法省少判事不任せられ幾く程もあく元老院権大書記官不轉於十二年職を辞して東京横濱毎日新聞の社長とある又曾て政談演説の會を設く之を嚶鳴社といふ君の能辨みして聴衆を感ぜしむる能く人の知る処なり

君ハ東京の人別号を轉々堂といふ曾て画を波藍翁小學又俳諧を善くし好んで小説を綴る曩々旧幕府に仕へ後ち退ひて閑居されしが明治六七年の頃日報社の社員とあり又日就社の記者となり小學雜誌を出版する十一年大坂新聞社の招不應じ同社の編輯人とありしが辞して東京へ皈り十三年八月日就社長子安君の聘不應じ再び同社の印刷長とされり

毎日新聞沼間守一君
 夢清栖野鶴
 香潔脱塵梅
 骸骨
 始
 吾
 有
 宛然
 歸去來



讀賣新聞高島藍泉君
 誰が眼
 みと



心
 分ハ
 誰が
 力

君ハ作州國谷村の人知名を
 太郎と稱し後ち銀次郎と改
 む曾て江戸不來り藤森弘庵
 先生の門不遊び内藤侯不仕
 へ上野別荘の番頭とある又
 米人へボン氏の英和辞書を
 編纂する君與てカあり元治
 年間一の新聞を始めしが故
 ありて廃止し明治七年日報
 社主の聘不應じ編輯不従事
 今尚同社の負外社員とあり
 君目業精錫水を嚮ぐ其驗効
 ハ衆人の知る処あり



君ハ東京の人初め名を金三
 郎といふ歳十九三井組の奉
 行人とある後番頭齊藏専藏
 養て子とあし純藏と改む以
 來三井組の爲め不尽力する
 とむも多く維新の後高法司
 の知事補不拜せられ尋で商
 社及開墾會社の起る不及て
 頭取を命せらる又商法會議
 所の議員とあられとり今年
 六十有餘不して同銀行の取
 締役不て検査掛を勤めらる
 君竹叟と号し書を好くす



君ハ大分縣佐伯の人あり曾て笈を負ひ東京に來り三田慶應義塾に遊び多年力を盡雪小堀し學成り業卒る不及んで報知新聞社の記者となる八年旧酒田縣令の榮譽を害はる行事を掲載はる科不依り禁獄ニヶ月罰金二百圓の刑不処せらる出獄の後同社の主幹とあり専ら自由民権の論説を記し又有志者と政談演説をなし数々談場不登り其主義を演せりると

女史ハ故の古河藩士某の女あり幼より慧秀凡あらゆる書史不通じ且つ画を能く喜んで山水を作る又曾て清人魏胎と贈答して丹青の神訣を論じ其画益々進めり画を求むる者争ひ集り常々其門不絶えは各家の壁頭概ね其画を見る不至れり明治十一年諸國遊歴中足を坂地小駐むるの際該地の豪商某画を女子不乞ひ一葉を得て金千円を贈りしといふ

名園芍薬高人菊亦是當年五

柳莊
季白桃紅
花過後獨看藍尾有
真芳
報知社社藤田茂吉君



奥原晴湖女史

秋月光明滿

碧空窓前

一啜

杯

三更未

寐今夜興

寂々虫聲雜冷風



君ハ旧鹿兒島の藩士あり文
 久年間藩侯の内命を受け寺
 島殿島森吉田町田の五氏と
 英國不至り大ひ小商業の
 を学ぶ維新の際召されて大
 坂府判事外國官兼務不任に
 成辰の役防城陸軍少將授泉
 防禦として大坂不出張に君
 軍番糧食を調へ大ひ小其行
 を助く後ち職を辞し藍の製
 法不尽力し礪山を開き株式
 會社を設け銀行等の商事不
 拮据従事せり

五代友厚君
 商法の活機不
 通じ関西
 の商
 権を握り能く
 巨萬の富
 を致し實不
 有為の人といふべし



君ハ勢州津の旧藩士あり幼
 小して文学をこのと好んで
 百家の書を讀み詩文を克く
 以成辰の役賊軍の將とあり
 諸処不轉戰中前陸軍大將西
 郷隆盛氏と戈を交へしこと
 ありと王政維新の後ち茨城
 縣の中屬を拜せらる后ち辞
 職して東京未り曙新聞社
 不入りて社負とあり論説を
 確實不し記事を密ふさる、
 を以て當時東京五大新聞中
 の一とあれり

曙新聞中村武雄君

客枕衾寒愁
 夢驚孤燈影
 暗正三



更、
 洪、
 濤、
 嶺、
 終宵怒霜月
 懸窓永夜明

君ハ東京の人也稟性温厚小
 して和歌を好み曾て旧恩藩
 の士黒沢翁九不就て学びて
 其奥技を極む明治八年君同
 志を募り同四月十七日第一
 号を発売之を東京繪入新
 聞といふ以来六年間断を
 出版其新聞の繪入をし
 て知童婦女も解し易きを
 以て市中到る処該紙を見ざ
 るも是れ君の絶藻の致は
 だ不して毎日出版の紙教二
 万枚を連こしといふ



君ハ下総佐倉の人あり初め
 大ひ小心を武術不用ひりか
 後ち江戸に未り蘭書を学ば
 慶應三年幕命に依り亞米利
 加合衆國に航以明治維新の
 右ち開拓使大藏省等不出仕
 し明治六年澳國博覽會事務
 官として彼地に赴き蘭人不
 就て農學を實し妹助偃曲氣
 筒の三事を我國へ傳へ農學
 社を麻布に開き農學雜誌開
 拓雜誌を發弘し大ひに農事
 を奨励せらる



君ハ東京の人猫々道人と号
 以幼不して伶俐好んで稗史
 小説を綴る曾て横濱不在
 の日横濱毎日新聞の記者と
 ある幾く許もあく東京不飯
 り一の仮名新聞を出版於之
 をかあよみ新聞といふ明治
 十二年の冬いろは新聞の社
 長とあり新聞中殊不猫洒落
 誌の一欄を設け府下校書社
 會の景況を具不穿ち一々之
 を新聞上不報於之れ猫々道
 人の号ある所以歟

いろは新聞仮名垣魯文君
 おえ南枝と記
 ぬ不死
 舌
 屠
 梅がま
 帯
 死
 漆めり



翁ハ下総佐倉の人也別号を
 木堂といふ年若くして江戸
 不来り幕医辻元崧庵の門不
 入り大ひ不医術を研究す柳
 東京の地形たるや低地ある
 不由り脚氣を煩ふ者年々數
 多あるを察し脚氣療治の方
 法不著目し大ひ不發明する
 處あり依て脚氣病院を横濱
 不建て内外の人民を治し方
 今東京府の所管ある本郷脚
 氣病院の御雇不て多く患者
 を救ハれたり

遠田澄庵翁
 松林迷失路
 小徑終
 相通
 欲望清
 泉掬孤村
 似画中



公ハ旧鹿兒島の藩士也通稱
 を厚之丞といひ成齊と号し
 性温厚不して文学を好み詩
 文を善く初め昌平黌に入り
 修学し后藩命に依り藩邸
 此学校を監督し文久年間英
 國の軍艦鹿兒島に未りし時
 公出て英人と應接し明治五
 年朝仕へ諸官を経今修史
 詔一筆編輯官不して從五位
 小叙せりる公著は処の書數
 部あり萬國公法和解編年日
 本外史等尤も世に流行る

編輯官重野
 安繹公



樹裏殘鶯窓外
 轉郵亭待得尺天傳

明治十四年二月廿六日 出版御届
 同 年四月三十日 出版發兌
 同 十五年五月一日 別製本御届

定價金大錢

編輯人

東京府士族

安井乙熊

同

平民

芝區芝西應寺甲三番地

平野傳吉

同區芝宮本甲一壹番地

出版人

發兌人

山中市兵衛

山中孝之助

同

山中喜太郎

各國書林

西京	田中治兵衛
全	藤井孫兵衛
大塚	前川善兵衛
全	岡島真七
全	柳原喜兵衛
全	小谷卯八郎
全	前川源七郎
尾州名吉屋	川瀬代助
全	萬屋東平
全	小栗太郎兵衛
美濃大垣	岡安慶助
參州岡峯	本尾文吉
駿州靜岡	浪花屋市造
全	米山定昌
豆州肥田村	柿島宇吉
全三島	堺屋又三郎

各國書林

豆州下田	平野屋久七
全蝶々野	丸屋善兵衛
相州小田原	米屋忠兵衛
全	伊勢屋次郎丞
全横須賀	竹川新四郎
全藤沢	川上九兵衛
全伊勢原	山田淺次郎
甲州山梨	内藤傳右衛門
全榎町	微古堂
全上野原	富田秀實
武州横濱	吉川伊兵衛
全八王子	高島惠三
全熊谷	松枝悦三郎
全鴻ノ巣	長島爲一郎
上總佐買町	小松屋長七
下總千葉	藤屋錠次郎

各國書林

下總佐原	正文堂利兵衛
野州足利	和洋商社
全真岡	塚田貞藏
全行木	叶屋儀右衛門
全	小林八郎
全	糸屋清助
全上三河	萩原藤作
全宇都宮	佐藤靜雄
全	田中清太郎
全	田野邊忠平
全	竹内藤吉
全	煥平堂
全	文心堂
全前橋	黑崎長三郎
常州水戸	川又銀三
全下館	須藤市左門

信州長野

全	西澤喜太郎
全	岩下伴五郎
全	田中弥兵衛
全	田中清左門
全	水琴堂爲吉
全	藤松屋棟十郎
全	榑屋重平
全	高見屋甚左門
全	井出孫一
全	鼠屋甲藏
全	矢島金八
全	協和堂本店
全	三浦源助
全	近岡屋太平
全	大橋甚吉
全	守川吉兵衛
全	土井宇三郎

越後葛塚

全	河上權三
全	三條屋七十郎
全	鳥屋十郎
全	上田屋治八
全	中村屋作平
全	松田周平
全	伊勢屋甚平
全	堀治作
全	林富吉
全	島屋六平
全	樋口屋小左門
全	野口保吉郎
全	番場吉次郎
全	伊勢屋安右門
全	糸屋作兵衛
全	伊勢屋源十郎
全	佐々木長藏

金石卷

全	山口啓之助
全	池野藤兵衛
全	佐藤正兵衛
全	田中治平
全	龍田屋萬助
全	平澤屋喜四郎
全	上野屋茂太郎
全	瀬野屋作右門
全	小池藤次郎
全	地主文三
全	地主清二
全	五十嵐太右門
全	市村屋五郎兵衛
全	荒井清作
全	萬屋利七
全	須佐權平
全	本間金之助

羽後秋田	岡田治	助	肥前佐賀	武富重	實	東京書林	北島茂兵衛
全 酒田	白崎善	助	全 大村	山口友	一	通三丁目	稻田佐兵衛
陸前弘前	武田莊	七	薩州鹿兒島	吉田幸兵衛	同	同三丁目	小林新兵衛
全	玉田平次郎	全	肥前熊本	青木精左門	同	大傳馬三丁目	東生龜次郎
全	石井常	吉	常州下館	長崎次郎	同	本石三丁目	江島喜兵衛
全 青森	野崎九兵衛	助	全 龍ヶ崎	八幡屋幸助	同	通油丁	水野慶次郎
全 八戸	池田吉	助	東京芝	岡野昌次	同	南傳馬三丁目	穴山篤太郎
全	浦山太郎兵衛	吉	野州足利	山中市兵衛	同	馬喰三丁目	石川治兵衛
渡島函館	浦山政	吉	日向宮崎	山中支店	同	茅丁	荒川藤兵衛
全	魁文	社	薩州鹿兒島	山中支店	同	新大阪丁	北澤伊八
播州姫路	常野嘉兵衛	平	遠州掛川	山中支店	同	本三丁目	小林喜右衛門
雲州松江	山野長	平	沖繩縣下那覇西村	山中支店	同	通塩丁	柳川梅次郎
筑前福岡	岡山喜三右衛門	登	信州長野	山中支店	同	通三丁目	内藤支店
全 柳川	山崎	社	東京銀座三丁	山中支店	同	銀座四丁目	丸屋善七
肥前佐賀	河内莊	助	全 四丁目	山中孝之助	同	通三丁目	博聞社
肥前佐賀	熊本吉	造		山中喜太郎	同		松田幸助





萬壽宮

卷之二



xrite ColorChecker® Color Rendition Chart